

10月3日(土)~ 12月13日(日)

休館日 月曜日、祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)
開館時間 9:00~17:00
(入館は16:30まで)

入場無料

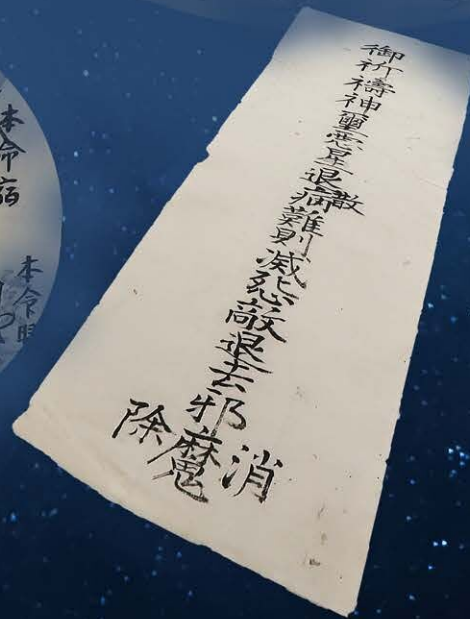
令和八年度企画展Ⅱ

星の導き

ほしのみちびき

天の声

てんのこえ



関連講演会① 「星座木簡と天文道の歴史」

講師 山下克明氏(大東文化大学東洋研究所 兼任研究員)
日時 10月24日(土) 13時30分~15時00分

関連講演会② (第184回袖ヶ浦学合同開催)

「星に願いをー古代房総の星信仰ー」

講師 西野雅人氏(千葉市埋蔵文化財調査センター 元所長)
日時 11月7日(土) 13時30分~15時00分

★会場 袖ヶ浦市郷土博物館研修室 定員30名(要申込) 参加費 100円
展示解説会 日時 10月3日(土)、11月7日(土)、12月5日(土)
いずれも 11時00分~ 申込不要

袖ヶ浦市郷土博物館

〒299-0255 千葉県袖ヶ浦市新田1133 (袖ヶ浦公園内)

TEL0438-63-0811 FAX0438-63-3693 E-Mail:sode65@city.sodegaura.chiba.jp



星の動きや またたきは 天の神様からのメッセージ

今から30年ほど前、袖ヶ浦市永地の西原遺跡で、変わった木の札が発見され、話題になりました。それは、木の小板に朱で中国の星座「天柱」と「此身護為」という文字の他、たくさんの「口」の字が書かれていました。その後の研究で、「口」のような記号は星、線でつながれたものは星座で、6つの星座が描かれた珍しい「星座木簡」であることが判明しました。

今回の企画展では、この星座木簡【紫微宮(しびきゅう)星座呪符木簡】の謎に迫りながら、古来から人びとが、おそれ、敬い、暮らしの支えとしてきた天や星への信仰について考えます。

I ようこそ、古代の天空世界へ

石室天井の精細な星図・星宿図で名高い奈良県のキトラ古墳と高松塚古墳。2基の古墳に描かれた古代の星空を眺めてみましょう。

II 紫微宮星座呪符木簡と描かれた星たち

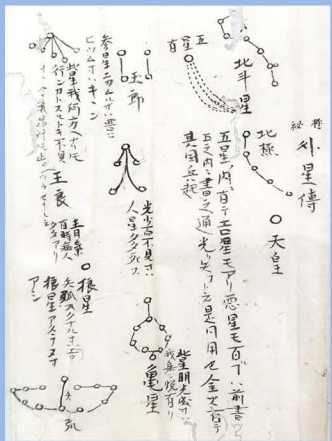
天には天帝がいると考えられていた古代中国では、天文学が非常に発達しており、日本でも長い間、中国由来の星図が天文知識の基礎となっていました。昔の人が考えた星空のイメージから、「星座木簡」の世界を深掘りします。



紫微宮星座呪符木簡
平安時代 当館所蔵
袖ヶ浦市西原遺跡出土

III 星のすがた

北極星、北斗七星、九曜など、特に人間の生活に影響のある重要な星は、人のような神仏の姿で表現されました。人間がそれぞれの星に抱いたイメージや期待を考えます。



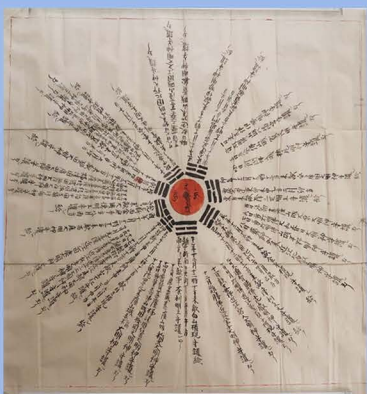
「天文免許」江戸時代
光福寺所蔵・当館寄託



「天岳・九天図」江戸時代 深河征也氏所蔵・
当館寄託

IV 星に祈る、星をまつ

仏教、神道、陰陽道…天の意思を仰ぎ、その力を味方にするため、人びとが行ったさまざまな方法を見ていきます。



「三十番神護符」江戸時代 当館所蔵

V 北にあるもの

不動の星・北極星が鎮座する北は、四方の中でも特別なものであるという認識があったようです。昔の人の時間と方位の感覚を「北」から探ってみましょう。

VI 天とつながる

星の運行や天の法則がわからなくても、生活に役立つ方位や季節の情報がわかる暦は、まさに天とつながるアイテムでした。その他、雨ごいなど天への切実な願いを届けるために実践していた方法を紹介します。